



命 ひびき合い



☆学力向上へ向けて☆



学校は、子ども達の学力向上について大きな役割を担っています。学び合う子ども達を育てるために、職員同士も学び合うことを大切にしながら、今年度も基礎基本の定着と活用力の向上へ向けて以下のような取組をしています。

①校内や校外の先生方と放課後や長期休業中に授業づくりについて学び合い、自分自身の指導技術を高めます。そのために年間2回以上、授業を見せ合います。

北鹿島小の先生方は、とても研究熱心です。放課後は、あちらこちらでよりよい授業に向けて相談したり話し合ったりする姿があります。

②子ども達が主体的に学ぶことができるように、子ども達の活動を保障したり、個別指導・支援の充実を図ったりします。

いかに子ども達の出番を増やすかが課題です。自分が学びの主体になるから、学ぶことが楽しいし、分かることやできることも増えていく。そんな授業を目指しています。

③基本的な学習習慣の定着(話の聞き方や話し方、家庭学習きた・かし・ま、北鹿島っ子がんばり週間)や読書の充実を図ります。

学びの土台づくりは、学校と家庭と連携しながら進めていきましょう。「家庭学習きた・かし・ま」については、年度当初に配布されています。(ホームページにも掲載)「北鹿島っ子がんばり週間」については、実施時期になりましたら文書が配布されますので、ご協力をお願いします。

☆令和7年4月17日 実施

全国学力・学習状況調査(6年生対象)の結果について☆

全国学力・学習状況調査の目的は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、成果として改善を図ることです。本校でも夏季休業中の校内研修で、学力調査についての成果と課題を分析し、今後の取組について話し合う場をもちました。



今年度の調査は、国語・算数・理科で行われました。本校は、全国の平均正答率と比較すると、国語と算数は、「低い」、理科は「ほぼ同じ」という結果でした。(正答率に5%の差があれば、「高い」「低い」と判断)設問ごとに見ていくと、とてもよくできている問題もありました。落ち込みが見られたところについては、今後改善を図っていきます。→ 分析結果については裏面

※3・4年生は、NRT(標準学力検査)、5年生は、佐賀県学力・学習状況調査を実施しています。3～6年生の保護者様へは、個人面談の際に、学力調査の個票をお渡ししています。

国語

【よくできていたところ】

○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること

○文中で「暑い」という漢字を正しく書くこと

→話し合いや発表の場面で、話し手の意図をくみ取りながら共感的に聞くことや同訓異義語を日常生活の文章で適切に使うことの指導の成果だと考えられます。

【課題と対策】

●叙述を基に、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することについての正答率が低い。

→キーワードやポイントとなる言葉に気を付けながら、内容を整理することができるようにしていきます。

算数

【よくできていたところ】

○分母が異なる分数のたし算

○示された資料から必要な情報を選んで式に表して計算すること

→繰り返し計算について習熟を図ってきた成果だと考えられます。



【課題と対策】

●図形、測定、変化と関係の領域での正答率が低い。

→図形の定義や特ちょうをとらえること、目盛りをよむこと、割合の意味をとらえることについて指導法を工夫します。

理科

【よくできていたところ】

○絵からヘチマのおしべとめしべを選んだり、「花粉がめしべの先につく」ことについて「受粉」と書くこと

○乾電池2個のつなぎ方について、直列つなぎで電磁石の強さを強くできるものを選択すること

→実際にツルレイシを育てて観察したり、モーターカーを作って実験をしたりした成果だと考えられます。

【課題と対策】

●実験の結果について、具体的な数値を使いながら書くことについての正答率が低い。

→実験の考察では、数値や減少など、具体的な数をあげながら、分かったことを自分の言葉で書くようにさせます。



学力調査で測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面ですが、課題については共通理解をし、指導法の改善を図っていききたいと思います。

9月1日発行の子ども佐賀新聞に、6年生の田中祐太郎さんの記事「アートとの出会い、日々刺激」が掲載されています。夏休みに自分でテーマを決めて美術館の学芸員さんに取材し記事にしたもので、学芸員の魅力が分かり、美術館へ足を運びたくなります。新聞は、全児童に配布しています。他の記事も読んで、ぜひ親子で話題にしてみてください。